

## 第2回AACA賞受賞作品視察会2025: ポーラ青山ビルディング/土浦亀城邸

会員交流委員会

開催日:2025年10月7日

視察先:ポーラ青山ビルディング/土浦亀城邸  
(東京・港区)

講師:安田幸一さん、安東直さん、鎌田裕樹さん、  
村井久美さん

会員交流委員会では、「第2回AACA賞受賞作品視察会2025」と銘打って、AACA賞2024受賞作品である「ポーラ青山ビルディング/土浦亀城邸 復原・移築」の視察会を10月7日に開催しました。

当日は講師として、建築設計監理を担当された安田アトリエの安田幸一さんと久米設計の安東直さん、鎌田裕樹さん、アート監修を担当されたTACプロパティの村井久美さんをお招きし、30名もの方にご参加頂きました。

ポーラ青山ビルディングは、その裏庭に土浦亀城邸を復原・移築するとともに、建築とアート、そして文化財をみごとに融合させたAACA賞にふさわしい都市環境を形成しています。SHIMURA bros(シムラブロス)によるアートは、1階に設置された2カ所のアートと5階の建物壁面から突き出したアート、窓面に描かれたアートの4点でひとつの世界観を創出しており、単純に建築にアートを置くということではなく、建築とアートが一体となった環境がみごとに実現されていました。最上階のテナント専有ラウンジから連続的につながる屋上庭園では、大山エンリコイサム氏による大壁画が青山の空と一体となった第二の地表面を創り出しています。このようにアートと建築の真の融合を実現するためには、設計初期段階からの準備と施工段階でのきめ細かな調整が前提となっており、事業者、設計者、アーティスト、施工者、そしてアート監修者の実現に向けた強い想いが結実したプロジェクトでした。

\*会報101号(2025年5月発行)の特集で、ポーラ青山ビルディングのアートについて詳細に解説しています。(P6-11)  
<https://www.aacajp.com/record/newsletter/pdf/No101.pdf>

目黒区上大崎から復原・移築された昭和を代表するモダニズム住宅である土浦亀城邸では、安田幸一さんから多くの貴重なお話をじっくり聞くことができました。玄関キャノピーを支える構造材を兼ねる中二階を介したスキップフロアの構

成は、設計者である土浦亀城氏が旧帝国ホテルの現場でのアルバイト経験と、その後のフランク・ロイド・ライト事務所で働いた経験の中でスキップフロアに対する強い憧れを抱き、自邸で展開したのではないかという話。横文彦氏は幼少の頃に土浦亀城邸を訪れ、その時の印象が建築家を目指すきっかけとなり、将来の青山のスパイラルでの空間構成に影響したらしいという話。2階の寝室では奥様の土浦信子氏が化粧台やクローゼットなど過半を占有され、亀城氏は手前のベッドのみ利用されていたようだという話。この住宅を巡る多くのエピソードに皆さん興味深く耳を傾けていました。また、90年前に建設された住宅にもかかわらず、

温水輻射暖房やシステムキッチン、ユニットバスの原型とも思われるバスルームなどもあり、見どころも満載でした。このような貴重なモダニズム建築が復原・移築できたことは、東京都の文化財保存に対する理解もあったと思いますが、奇跡と言ってもよいと思います。

視察会後の講師の方々を交えての懇親会においても、さらに多くの裏話をお聞きすることができました。会員交流委員会では今後も、設計者あるいはアーティストから直接話を聞くことができる、今回のような視察会を継続的に企画してまいります。どうぞご期待ください。

(担当理事 大草徹也)



ポーラ青山ビルロビー吹抜け越しに見た土浦邸



青山通りに面した建物外観 撮影:T. Morita



土浦邸前にて集合写真 撮影:T. Morita